

平成21年度第2回愛知県道徳教育推進会議協議の概要（議事録）

日時：平成21年12月18日（金）14：00～16：00

- 1 開会
- 2 愛知県教育委員会あいさつ（義務教育課長）
- 3 議長・副議長あいさつ
- 4 議事

〔報告事項〕

- (1) 平成21年度 愛知県道徳教育推進会議等の進捗状況について
- (2) 平成21年度 第1回愛知県道徳教育推進会議協議内容について

〔協議事項〕

- (1) 第2回 愛知県道徳教育推進会議の協議内容について

ア 子どもたちの人間関係を築く力や社会性の現状認識は、妥当であるか。

視察等での道徳の時間の実態などから、学校に求められていることはないか。

イ 子どもたちの人間関係を築く力や社会性を育むには、どのような手だてがあるか。

ウ 「人間関係を築く力や社会性を育む道徳教育の在り方」の啓発はどのような方法がよいか。

議長： アについて、要項資料6、7でも示されたが、不足しているような事柄はないか。もっと良い面も出しても良いのではないかと思う。

委員： 資料7の議長さんの言葉に「発達が遅れている、人間関係が弱くなった」とあるが、私もそのような感じをもっている。問題は、どこに物差しを置いてどういう程度で判断するか。良い面との両面で言わなくてはならないと思う。

議長： 手だてを考えようとしているので、気になることが出ていると思う。

委員： スクールカウンセラーとして、小学校に勤務している。学校保健委員会で、アサーショントレーニングとあって、自分にも他者にもうまくコミュニケーションがとれるということについてやった。保健委員に最初の場面で、どんな介入がよいのか、どんなけんかの仲裁の方法がよいのか、シナリオを書いて劇をやってもらった。小学校の高学年でもうまく演じた。今の子どもたちは、枠や役割を与えてやるとうまくできる。学級の中の係活動で、ある学校では、生活サポート係というのがあり、困っている子がいたら何ができるか、学級で問題が起きたりしたら、どんな方法がいいのかを見つける活動をやっている学校がある。子どもたちの力で道徳性を高めるときに、子どもたちの力で何かができるようにするととても良いと思う。

議長： 本来的に子供は力を持っているが、それをどう発揮したらよいか分からない。その力が欠けているという人もある。周りの大人がそれをどう育てたらよいかということだと思う。現状として、伝達ができないという悩みはたくさんでてきていると思う。現状把握の認識は、大筋では、間違っていないと思う。

議長： イについて、何か意見はないか。

委員： （指定校として）道徳の時間をきちんと取り組んでいる中で、子どもたちの道徳の時間のとらえとして、意見として何を言ってもいい、誤りが無い、人との間で優劣がないと感じられる雰囲気になった。教師として行動や言動を注意することがあるが、心を意識するようになってきた。自分について考えさせる機会ができたのではないか。

議長： 社会性をはぐくむとか人間関係を築くということについて他に何かないか。

委員： 高座小学校の発表会に参加し、貴重な体験をした。6年生の白い杖をもった目の不自由な方をヘルプすることができたという授業で、いい意見も自分にマ

イナスになるような意見も気後れすることなく言えていた。自分の意見をみんなに聞いてもらえる。受け入れてもらえる時間がそこにあって、自分は大事な人間なんだな、意見を交換することは楽しいんだ、ためになるんだと感じている空間があった。自分もその授業を見た次の日、白い杖を持ったおばあさんに出会い、「お手伝いできることはありませんか」と自然に声をかけることができた。子どもたちのお陰と思い、お手紙を差し上げたら、子どもたち一人ひとりからお返事をもらえた。その中に、「道徳はすばらしいと思いました。……たった一つのお話で人の心は変わり勇気を出すことができるようになる親切のリレー。今度は私の番だと思います。でも、断言できるという自信はありません。でも、今の私にできることをやれる自信はあります。例えば、…」小学生なりの事例がたくさん書かれている。ここまで、深く思いを馳せるというのは、道徳の価値を押しつける時間ではなく、人と触れあうからだと思える。

委員： 子どもたちの欠点はいくつ並べても、うまくいかないのではないかと思っている。教師や保護者、子どもを取り囲む大人がどれだけ子どもたちの話に共感するか。子どもたちがスリッパをそろえたときに、ほめられたいからと言う大人があったらそれは違うと思う。やはり、すばらしいなあという言葉掛けが必要だと思う。どんなことに気付いたらいいのか、見る目と聞く耳を育てる。わたしたち大人が、子どもたちの言動に共感していくことが大切。孫に、「早く寝なさい」と言ったら、お母さんに「どういう意味」と聞いた。「早く寝ましょうという意味だよ」と言ったら、「ふーん」と言って寝た。他の人が我が子に何か言ったときに、「そんなこと言ったの！」と言うと社会性が育たない。「それはこうだよ」とか、その子にとって、プラスに捉えられるような声かけをしてやらなくてはいけない。PTAでもそういう話をした。本当に我が子は分かっているのか。なぜお母さんは早く寝ないの、なぜ早く寝なくてはいけないのかと、いろいろ思うと思う。そういうときに、共感的に受け止めていくと、もっと人間関係がうまくいくと思う。

委員： 職場が幼稚園なので、今から人間関係をつくっていかうとする子ども達をいかに育てていくのか。一人の子が泣きだした。3歳の一人の子が寄って行って頭をなでている。「すごいね。えらいね。」と言って、母親にも知らせた。ひとつひとつに共感していく。分かるように、言ってあげるとか、言いつばなしではなく言ったら知らん顔ではなくて、フォローをしていくように大人も努力をしていくと子ども人間性も育っていくのではないか。

議長： 電車の中で、化粧とかしている子がいる。列を乱す子もいる。多くの子どもは、しっかりやっているのに、どこに岐路があるのだろうかと思う。学校では指導していて、本人は分かっている。あえてやる子もいるのか、分からずにやっている子もいるのかと迷う。

委員： 両校の授業を見せてもらった。とりわけ、教材化されていたものが、具体的に身近で良かったと思う。2校の研究発表から思うのは、道徳の授業は授業できちっと取り組んで、道徳の授業を取り巻く教育活動が丁寧に幅広く行われている。高座小学校では、大きな項目として、心を豊かにするには、どんな体験活動をすればよいかとか、家庭・地域との連携や心に働きかける環境とかに、取り組まれている。大塚中学校では、キャリア教育とのかかわりでいくつかの項目が掲げられている。夢づくり、学力づくり、人間関係づくり、心づくりと掲げられている。そこに焦点化するように道徳を取り巻く学校教育が行われている。人間関係を築く力や社会性も培われるのではないか。

議長： 道徳は日々の生活の中で、いろいろ学んでいるのではないか。私は、良いこ

と探しをやっている。悪いところや良いところは、しっかり言った方がいい。でも、注意しても叱られたと思う子どもたちの中で、そういうこともなかなか難しい。

委員： 良いこと悪いこと。脳を育てるのに2つの方法がある。一つは本当に良いものだけを見せる。もう一つは、良いものと悪いものを見せ、その中から良いものの価値を見つけさせる。良いのは、良いものだけを見せる方である。いつも良いものを見せ、その中に紛れ込んだ悪いものを排除する。良いことをずっとしつけていく。いい状態に慣れさせる。そうであれば、スリッパが乱れていたとき、子どもたちは、さっとスリッパをそろえる。そういうところから、人間関係を見ていくといいのではないか。様々なかかわりをするのだが、エジソンも教え合い、学び合い、友達同士で学ぶことが大事なんだと言っている。そういう中で、様々な言葉で表し、それがまずいことにもつながるということを学んでいく。場の大事さを感じる。

委員： 環境作りとかかわりの場ということで、研究を進めてきて、本校の場合、いろいろな場に出て行って、自分を表現してかかわらざるを得ない。キャリア教育ともかかわっていたので、体験学習を大事にしている。学校の外にいる人たちとかかわっていく場を設定して、子どもたちが逃げないということが、人間関係力を育てるには大切だと思う。心をつくるということでは毎日の生活の中で、教師と子ども、子ども同士がどのように自己表現し、認め合うかということが大切。教師としては、子どもをきちんと見ているということが大切。

議員： 体験はいろいろなところで重視されている。いろいろな価値観の人と、いかに広く接するかが大切。様々な付き合いができる場を設定することが大事。

委員： 自分は、子どもの指導に携わったことはない。子どもにとって道徳の時間は楽しみではないし、道徳が何なのかは分からない。大切さは、大人になって分かってくる。子どもたちは、自分たちに大事だということをどう受け取っているか。電車の中で化粧をしている。そういうことは親が教えるべき。地域でも、核家族化で、おじいちゃんおばあちゃんと暮らしていない子が増えている。地域で町内会長が元になり、子どもたちに芋を作り、芋掘りから焼き芋をやらせている。触れ合いができる。いい環境ばかりで育てるのがいいのかどうか。逆境の時に乗り越えられるかどうか。いろいろな体験も大事ではないか。

議長： ウについて、啓発の方法としてはどうしたらよいか。

事務局： 資料を基に説明

議長： カレンダーで出すときには時期を考えなくてよいか。例えば、4月は、友だちをつくるということなど、学校の1年間の流れを考えなくてもよいか。

委員： 現状を分析したときに第1に出てくるのが、少子化である。兄弟が少ないために切磋琢磨される機会が減少した。しかし、少子化は、直せるものではない。学級なり、学校なり、異学年集団なりが切磋琢磨の役割を担わなくてはいけない。学校にどう担わせるかがテーマに対する対策になる。また、核家族化が問題視されているので、お年寄りと触れ合う場面をどうつくるかを啓発の中に示すことができるとよい。議長さんが、挨拶で、家訓ということを言われた。家訓は、常掲しそれを見て常に自分を振り替えるということが趣旨徹底していく場合に必要だということであれば、常掲して季節的な物で6枚を編集するというのもいいが、少子化など現状に即して6枚の内容を考えるのもいいと思う。

議長： 子どもたちの現状を考えながら学校や家庭が子どもたちにできること。時代の流れの中で子どもたちに学んで欲しいこと。一つは学校の中でできること。形としては、この形で作り直していく。方法そのものなどで意見はないか。

委員： 参考資料の例として、対象は先生、職員室掲示となっている。先生が対象である場合と保護者が対象である場合とでは、内容が違ってくると思う。先生が対象であると、日頃から意識しているので、更に強化するということになる。保護者の場合は、普段は意識していないところでいかに意識してもらうということになると思う。全世帯に配付というのは難しいか。

事務局： 国の動向は不安定である。会議の予算が減少すると思われる。予算が同じくらいであれば、前回のリーフレットと同じくらいの物ができる。今回の場合、版が6枚になるので、難しい。予算がない場合を想定し、データをWeb配信することになるのではないかと思う。前回のリーフレットでは、最後の1ページを家庭配付用とした。学校によって、カラーか白黒かは、分からないが、学校の事情に合わせ、印刷して配付していただいたと思う。

委員： ポスターくらいの大きさにして、真ん中にカレンダーがあり、周りに啓発したい物があれば、順番に輪にして示すことができる。そうすると版が1枚で済む。ポスターくらいの大きさなら子どもたちの目にも付く。家庭でもダウンロードすれば、サイズが小さくはなるが、プリントすることができる。白黒でも配布が可能ではないか。

議長： 経費の問題もかなりある。月でいったのは、ぱっと一斉に出すとその時だけで流れてしまう。それぞれの月ごとに出す。月が変わったら出す。学校で出したら、子どもにも配付し、家庭でも気をつけようと言える。家庭でも貼ってもらうこともできるかなあと思う。

事務局： データであれば、いろいろな使い方ができる。

議長： 一度に出すと、見ないので、月ごとに出すといいと思う。

議長： 先生方がお便りに付けるということでもいいと思う。

先生が子どもさんとのコミュニケーション、子どもさんは、親御さんとのコミュニケーションとして話題になるといいと思う。内容などについて意見を申し出ていただきながら、事務局に一任でいいですか。

委員： 指定校の実践が多くの学校に取り入れられ、愛知の子どもたちに還元されていくといいと思う。子どもの写真やつぶやきがあるといいと思う。下の方に、こんな実践があったというような紙面を想像した。こんなつぶやきを引き出すには、こんな授業を行うといいんだということが分かるといいと思う。

委員： 4つの視点の中の、「1自分自身に関する事」はなくてもよいのではないだろうか。大人は完結を望むのだが、子どもにとっては違うと思う。人と人とのかわりならば、2と4でいいと思う。自分を知ることは難しいと思う。

議長： 自分が大切にされていると感じなければ、他人も大切にできないと思う。

委員： 子どもが、人のことを手伝おうとしたときに、自分のこともできないのに、何をやっている、まず自分のことをやりなさいと言う。自分のことばかりしていると、自己中と言われる。人のことを考えさせなくしてきたのも大人である。自分のことができなくても、人のことをやっている内にやった喜びを味わうことができる。まず自分のことからというともっと難しいのではないか。

議長： 文科省でも、自分自身のことを第1に挙げている。それなりに理由があると思う。自分のいいところやできないことを知るといっても、他人を知ることにもつながると思う。

参考にさせていただきながら、それぞれのウエイトなどを考えていく。

(2) 平成22年度の愛知県道徳教育推進会議の計画について

5 閉 会